



会報 No.30

平成19年4月30日発行
編集・発行／広島オーストリア協会
〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ 秘書室
TEL(082)221-4964 FAX(082)221-4731



広島オーストリア協会会長
在広島オーストリア名誉領事

橋本宗利

会員の皆様には日頃広島オーストリア協会の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会では、6月に総会及びクラシックコンサート、8月にビアホールの会、11月には初めての試みとしてオーストリアウィーク、さらに12月にはクリスマス例会、3月に講演会と幅広い内容の活動を開催しました。

そのうちのいくつかについてご説明しますと6月のクラシックコンサートでは、モーツアルト生誕250年を記念してザルツブルク室内管弦楽団が来広し会場の聴衆を魅了しました。

11月の広島オーストリアウィークではノーベル平和賞を受賞したオーストリア人作家ベルタ・フォン・ズットナー女史の業績を偲ぶ展示会を中心としたイベントで、会員の皆様のほか多くの市民の方に会場に足を運んでいただき好評を博しました。

また、たびたび広島においていただいたペーター・モーザー駐日大使が12月退任し帰国されました。後任大使は本年前半にも着任の見込みです。

さて今年は通常の行事に加え、オーストリアと近隣諸国を訪問するオーストリア親善訪問の旅を2年ぶりに実施したいと考えており皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

協会では、今年も皆様のご期待に沿うよう活動の充実に努めてまいります。会員の皆様の積極的な行事への参加をお願い申し上げます。



総会



- 日 時 平成18年6月9日(金)18:00~20:00
 ■場 所 広島全日空ホテル3階オーキッド
 ■出席者 111名

広島オーストリア協会の通常総会が広島全日空ホテルで行われました。今年で18回目となる総会には111名が出席しました。会でははじめに当協会の橋本会長が「他の二国間協会に比べ、会員数の維持という面では当協会は健闘しており、行事への出席率も高くなっています。引き続き会員数の拡充に努めたいと思います。」と挨拶しました。

続いて行われた懇親会では、ペーター・モーザー駐日大使が挨拶し「今年はEUの議長国として環境、外交など加



橋本会長挨拶



マリンバ演奏

平成18年度事業報告

平成18年度理事会・総会・懇親会
6月9日(金) 広島全日空ホテル (参加者:111名)

ザルツブルク室内管弦楽団
6月24日(土) 広島県立文化芸術ホール
(旧 広島郵便貯金ホール) (参加者:1510名)

ピアホールの会
8月25日(金) ケントス広島 (参加者:85名)

広島オーストリアイーク
駐日オーストリア大使館、広島オーストリア協会、広島国際学院大学共催
11月9日(木)~14日(火)
広島国際学院大学立町キャンパス (参加者:568名)

クリスマス例会
12月7日(木) リーガロイヤルホテル広島 (参加者:150名)

講演会・懇親会
3月22日(木) 広島ホームテレビ (参加者:71名)

平成19年度活動予定
6月8日(金) 平成19年度理事会・総会・懇親会
7~8月 ピアホールの会
9月 オーストリア親善訪問の旅
12月9日(日) ブラシシモ・ヴィーン金管五重奏団
(広島国際会議場フェニックスホール)
12月 クリスマス例会
2~3月 講演会
年1回 会報発行

役員の改選及び選任について(平成18年6月9日現在)

役員	現任者	候補者	現職
会 長	橋 本 宗 利	橋 本 宗 利	株広島ホームテレビ社長
副 会 長	田 中 和 彦	新任 池 上 徹	マツダ㈱業務管理本部長
〃	〃	新任 不 破 亨	湧永製薬㈱広島事業所副社長
〃	光 井 安 子	光 井 安 子	エリザベト音楽大学非常勤講師
〃	山 中 光	退任	㈱マルニ顧問
専 務 理 事	松 原 一 彦	松 原 一 彦	株広島ホームテレビ総務局長
理 事	安 倍 寛 信	安 倍 寛 信	三菱商事㈱中国支社長
〃	アルノト・オーバーマイヤー	アルノト・オーバーマイヤー	駐日オーストリア大使館文化担当官
〃	金 井 宏 一 郎	金 井 宏 一 郎	株中国放送社長
〃	金 村 武 敏	金 村 武 敏	㈱テレビ新広島常務
〃	紙 元 秀 樹	紙 元 秀 樹	財ひろしま国際センター専務理事
〃	熊 平 雅 人	熊 平 雅 人	㈱熊平製作所社長
〃	後 藤 文 生	後 藤 文 生	広島テレビ放送㈱社長
〃	斎 藤 忠 臣	斎 藤 忠 臣	財広島平和文化センター理事長
〃	菅 田 泰 介	菅 田 泰 介	福山商工会議所会頭
〃	杉 原 萌	杉 原 萌	広島エフエム放送㈱社長
〃	福 嶋 正 純	福 嶋 正 純	広島大学名誉教授
〃	古 川 吉 彦	古 川 吉 彦	株広島ホームテレビ副社長
〃	望 月 成 二	望 月 成 二	エビス電工㈱社長
〃	森 本 弘 道	森 本 弘 道	㈱もみじ銀行頭取
〃	山 本 一 隆	山 本 一 隆	株中国新聞社副社長
監 事	志 水 省 夫	志 水 省 夫	㈱新日放社長
〃	寺 田 達 明	新任 荒 川 昌 治	中国電力㈱常務

活動報告

モーツアルト生誕250年記念 ザルツブルク室内管弦楽団～楽聖誕生の地より～

- 日 時 6月24日(土)
 ■場 所 広島県立文化芸術ホール(旧:広島郵便貯金ホール)
 ■演奏曲目 全モーツアルトプログラム
 ・セレナード第2番ヘ長調kv.101
 ・ディヴェルティメントニ長調kv.136
 ・アルペンホルンと弦楽のための協奏曲ト長調
 ・交響曲第40番ト短調kv.550

1756年、オーストリアはザルツブルクで生を受けた、ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト。2006年は生誕250年記念の年にあたり、ザルツブルク音楽祭はもとより、世界各地でモーツアルトを祝うイベントが開催されました。モーツアルトは、その創造性に富んだ短い生涯において626の作品を書き上げ、現代に至っても時代を超えて愛され続けています。今回の演奏会は、室内管弦楽に集中的に取り組んだことで名高い指揮者、ハラルド・ネラート率いる、ザルツブルク室内管弦楽団によるもの。1986年の結成以来、モーツアルトの全曲演奏や連続演奏会を行う、いわゆるモーツアルトのスペシャリストとして確固たる地位を築き上げた楽団です。

さあ、いよいよ開演という時、私は舞台袖にいました。指揮者はまるでコメディアンのように明るいお人柄でメンバーを笑わせています。皆さん笑顔でなごやかな雰囲気でした。メンバーが位置に着き、よいよ1曲目がスタート。この瞬間は誰しもがドキドキして緊張が走ります。私も横から舞台を見守っていたのですが、突如楽屋裏からビオラ奏者の女性が走って来ました。「どうしよう?舞台に出るの忘れた!」と慌てているではありませんか!驚いていると、「あなたたちは1曲目は出なくていいのよ」と、ツアーコンダクターが一言。こんなこともあるのだな…!と愉快な場面に遭遇したのでした。

さて1曲目のセレナードはシンプルな曲調。当時の舞踏音楽で、コルトダンスという舞曲なんだそうです。モーツアルトの曲が癒しに効果があるというのをまさに体感できるような優しい音色でした。客席ももすっかりリラックスした雰囲気で2曲目に移りました。KV.136も明るい旋律が特徴で、クラシック音楽を決して身構えて聴く必要はなく、どんどん馴染んでいくようにプログ

ラムが構成されているように思いました。そして3曲目は、当日曲目変更となつたのですが、アルペンホルンが登場しました。きっと初めてご覧になられる方も多いかたではないでしょうか?何とその大きさは全長3メートルで、重さ3キログラムだそうです。演奏者も背の高い方でしたが、そのコスチュームが傑作でした。ハーフパンツにシャツに帽子と靴下。まるでアルプスの羊飼いのよう!後で聞いたのですが、あれは何と30年前の衣装だそうです。道理で味があったわけですね!ホルンの演奏はそれはもう楽しく盛り上りました。ここで前半が終了するはずだったのですが、拍手が鳴りやまず、いきなりアンコールに突入!これは予定外で、単にその場の雰囲気によるもの。観客も一緒に手拍子で盛り上がり、指揮者も嬉しそうに踊りながら客席に向かって指揮棒を振っています。舞台と客席が一体となる楽しさは、まさに生演奏ならでは。これだからコンサートって楽しいのだと思います。

休憩を挟み、いよいよ最後の曲、交響曲KV.550となりました。長調で明るい曲調だった前半に対して、後半30分は短調で綴られた哀愁漂う名曲の演奏。悲しくも美しい音色に会場は包まれ、クライマックスを迎えたのです。モーツアルト・イヤーに相応しいプログラムであつという間の2時間。きっとクラシック好きでもそうでない方でも楽しいひとときを過ごせたのではないでしょうか?

さて2007年にオーストリア協会がお届けする公演は、この数年と雰囲気を変えて、12月に開催する予定です。是非ご期待ください!

HOME 事業部 表田恵里



ピアホールの会

- 日 時 8月25日(金)18:00~
 ■場 所 ケントス広島
 ■出席者 85名

広島オーストリア協会、夏の恒例行事「ピアホールの会」が今年も開かれました。会場はオーストリアっぽいエレガントな雰囲気とは違い50~60年代の音楽が中心のライブハウス「ケントス広島」で開かれました。

会でははじめに橋本会長が「今年はビートルズ来日40周年です。ビートルズナンバーの他オールディーズのライブもあります。皆さん腰痛にならない程度にお楽しみください」と挨拶しました。

このあと、法人会員で広島ガス社長の深山英樹様が「オーストリア協会は華やかで明るく楽しい会を開いており毎回楽し

です。ケントスには20年ぶりにきますがこの雰囲気を堪能したいと思います。」と挨拶しカイザービールで乾杯しました。

会では、「ダイアナ」や「プリーズ Mr ポストマン」などオールディーズにあわせて会員の方々が得意の(?)ステップを披露されました。

また、オーストリアから広島市内にホームステイしているシュテファン・ベルガーさんが訪れ「あと2週間で帰国します。広島ではお好み焼きが大好きでした。広島で好きな場所は比治山で、ホームシックになったときはよく行きました。協会の皆さんにもお世話になりました。」と名残惜しそうでした。

参加した会員の皆さん、ジョッキを片手に楽しいひとときを過ごしていました。

広島オーストリアウィーク開催!!

広島オーストリア協会の初の試みである「広島オーストリアウィーク」が平成18年11月9日(木)から14日(火)の6日間にわたって広島国際学院大学立町キャンパスで開かれました。

このイベントは、駐日オーストリア大使館と広島国際学院大学そして広島オーストリア協会の共催で、モーツアルト生誕250周年を記念してオーストリアの歴史・芸術・文化から観光まで総合的に紹介しようというものです。

期間中通じてのイベントは、「ノーベル平和賞」の生みの親でオーストリアの作家ベルタ・フォン・ズットナー女史の展示会で、彼女のノーベル平和賞受賞100年を記念し彼女の平和への思いやさまざまな活動をパネルで紹介いたしました。ズットナー女史は2ユーロ硬貨の肖像画にも描かれています。また、広島国際学院大学ではデザイン・アート分野の教員がオーストリアのリンツで開かれるメディア・アートの国際フェスティバルに参加されたり、芸術工科大学と交流を深めているという関係から、今回のイベントに参画されました。

9日のオープニングセレモニーにはペーター・モーザー駐日大使のほかサンフレッヂのペトロヴィッチ監督とそのご家族など県内在住するオーストリアの方をはじめ60人あまりの方が出席しました。

セレモニーでは、ハワイ在住の国際的ピアニストリサ中道さんによるモーツアルトのピアノソナタの演奏のあとカクテルパーティーが開かれ開催と共に祝いました。

その他、下記のイベントが行なわれました。

■レクチャーI 「メディアアートとデザインの潮流」

広島国際学院デザイン情報学科では今夏オーストリアで開催されたメディアアートの祭典「アルス・エレクトロニカ」の見学をメインとしたヨーロッパ研修を実施。その帰国報告を学生・教員がそれぞれの視点から行ないました。

〈広島国際学院大学 情報デザイン学科 公開講座〉

■レクチャーII 「メディアアート市民講座「過程の形状-プロセスの持つ意味の姿」

メディアアーティストの山田亘氏の講演。

■ティータイムトーク(協賛:バッケンモーツアルト)

おいしいお茶とケーキを食べながら、オーストリアの魅力について楽しく語り合いました。



(テープカット)



(ペトロヴィッチ監督)



(カクテルパーティー)

- ①「オーストリアの歴史と文化」
政府公認の現地観光ガイド IPP 常子さんがオーストリアの歴史や文化を紹介しました。



(大使挨拶)

- ②シネマトーク
「映画で見るオーストリア」

11/12(日)14:00～シネマエッセイスト 鈴木由貴子さんがオーストリアにゆかりの映画作品の紹介し解説しました。

■上映会

平成15年に広島ホームテレビで放映された番組「オーストリアに魅せられて」を上映しました。

■レクチャーIII 「ベルタ・フォン・ズットナー」について

日本におけるズットナー研究の第一人者 山根和代さんが今回の展示内容についてわかりやすく解説しました。

■レクチャーIV 「物理空間とweb空間を重ね合わせる」

アルス・エレクトロニカ入賞作品「NetRobot」など、ユニークなプロジェクトを作品化し注目を集めているメディアアーティストの渡邊英徳さん。作家自らが自作について語りながらメディアアートの表現の可能性を展望しました。

〈広島国際学院大学 情報デザイン学科 公開講座〉

■モーツアルト アンサンブルコンサート

モーツアルト生誕250周年にちなみ、エリザベト音大院生によるコンサートを実施。エンディングを華やかに彩りました。

■作品展示

- 渡邊英徳「NetRobot」(デモムービー)
「さくらマッピング / 期間中全日 / 会議室
- 学生課題作品「平和のイメージへワインボトルのラベルデザインへ」
(協力:三次ワイナリー) / 期間中全日 / 展示ホール

ベルタ・フォン・ズットナー展

日本で初めての ベルタ・フォン・ズットナー展

平和博物館国際ネットワーク諮問委員 山根 和代

に関する展示を見ることができた。

2005年にはズットナーのノーベル平和賞授与100周年記念として「平和のために捧げた生涯」という展示物が、オーストリア政府によって発行された。日本では広島で初めて展示会が開催されたが、これは画期的な出来事である。ズットナーは核戦争の恐ろしさを予言していたので、広島での開催には大きな意味があったと思う。

ズットナーは世界大戦の被害の大きさを予言したが、第二次世界大戦後も戦争や紛争が数多く勃発している。ズットナーは武力ではなく、話し合いで平和的に問題を解決する重要性を主張し続けたが、1889年に出版された『武器を捨てよ』の小説は今日でも十分通用する。2001年の9.11テロ事件後「対テロ戦争」と称してアフガニスタンを攻撃し、また2003年にはイラクを攻撃した米英中心の有志連合は、国連憲章の精神を否定した。国連憲章では、国際紛争の解決を武力行使ではなく、「平和的手段によって且つ正義及び国際法の原則に従って実現すること」を明記している。国連憲章に違反したアメリカを支えている日本は、「國權の發動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、解決する手段としては、永遠にこれを放棄する」ことを明記した憲法第9条の精神を大切にするべきであろう。

ベルタ・フォン・ズットナーが反戦小説『武器を捨てよ』を出版したのは1889年、つまり今から118年前であるが、彼女が主張した戦争の放棄、紛争の平和的解決の重要性に、核兵器が存在している今日ますます耳を傾けるべきであろう。

日本ではオーストリア大使館に問い合わせれば、平和博物館、平和資料館、学校、大学など様々な所での展示が可能である。展示物はタペストリーになっているので巻くことが出来て、郵送が簡単である。(タペストリーのサイズは、90×125センチで、19枚ある。) 今後多くの場所で活用されることを期待している。



(向かって右側が山根和代さん)

ウィーン旅行

広島オーストリアウィークでは期間中の来場者の中から1組2名の方にオーストリア航空で行く「ウィーン無料ペア航空券」が当るクイズを行ないました。そして、多数の応募者の中から厳正な抽選の結果、広島平和文化センター国際部留学生会館にお勤めの久保田良枝さんが当選されました。久保田さんから旅行記が寄せられました。

(抽選風景)



「突然のウィーン旅行」

広島オーストリア協会・広島国際学院大学共催による「広島・オーストリアウィーク」において、オーストリアの歴史や文化を皆様にご紹介できましたことは、私にとりまして大変名誉なことでした。オープニングでは、多くの関係者の方々にお会いできて光栄に思っております。このようなイベントは、西日本では初めての試みと聞きましたが、今後もさらに多くの方々に興味を持っていただければと願っています。

広島オーストリアウィーク開催中、「ベルタ・フォン・ズットナー平和への想い」の講演会後のクイズに回答し、思いがけず無料ペア航空券を当選いたしました。広島オーストリア協会のイベントに誘ってくださった会員の梅谷様、快く休暇を与えてくださった留学生会館の職場の方々、そしてオーストリア航空の方など、本当に皆様のお陰でオーストリアという国に初めて触れることができました。素晴らしい経験を与えられた事に感謝申し上げます。

私の旅のパートナーは、年に2回は海外へ行く旅の達人。インターネットで情報収集し、出発前250ページにわたりプリントアウトした資料をくれました。(彼女に依存。読まずに出発しましたが。)口コミ情報も利用しながら、交通至便・スパ付・おいしい食事のホテルや美術館入場券の予約まで済ませてくれ、作られた旅よりも自己責任において作る旅になった事を実感しました。

1月20日ウイーン空港に到着後、空港から市内をわずか16分でつなぐ快適なCATに乗りました。国際空港広島にもアクセスのよい専用列車があればと思います。ウイーン市内の路面電車は環状線で、電停と地下鉄・バスがリンクしていることもあり大変便利な交通網でした。空港内で購入した3日間有効のウイーンカードをフル活用。電車・地下鉄・バス乗り放題。また、美術館・食事・買い物等様々な割引券にもなり、旅行者にとってはなんともお得なカードでした。

欧米では主流の信用乗車制度、乗務員による運賃収受や検札を省くシステムに感動しました。改札口もなく、自分で切符に乗車記録を打つのみ。誰もチェックしないので(抜き打ち検査で見つかれば何十倍の罰金ですが)本当に切符を持っているのだろうか?と乗客一人一人に聞いて



みたい、そんな疑う私がそもそもおかしいのかもしれません。お天道様がみているよ!子供の頃によく言われていました。まず人を信じるという制度は、本当に心地よい。昨今、私たちの社会が住みにくくなっている原因は、誰もみていらない所での振るまい・行動、自分自身への恥らいを失ったことから多く起因しているような気がします。個人のみならず企業もしかり。帰路の飛行機の中で配られた国内紙のトップ記事は捏造とか事実隠蔽等の記事ばかり。自分の立場や利益のためにモラルが崩壊し、人が人を信じられない、他人の間違探しをしているような日々の中に私達はいるような気がします。折しも中国新聞(2月26日付)に2011年度から車掌を廃止してこの信用乗車制度を広島の路面電車に導入するとの記事が!ウイーンと広島がどこかつながったようでとてもうれしくなるニュースでした。

シェーンブルン宮殿のグロリエッテ内でザッハトルテを食べた後、リスを追いかけながら住宅街まで歩いていた時の事です。横断歩道を走って渡りきると後ろで車のクラクションが一斉に鳴り出しました。何事かと思いきや振り返ると、大型バスが交差点の真ん中に左折状態で止まっています。道路の真ん中に、なんと私のうさぎの毛の襟巻きが動物の死体の如く横たわっていました。ウイーンは寒いからといって私の友人が貸してくれた大事なものです。落としたことに気づかない私に対して配慮の騒音でした。

数日間の滞在でしたが、私を大事にしてもらい、人として信用してもらったという体験は、本当に心暖かになり貴重ものでした。現在多くの留学生や外国人の方と接する仕事をしています。まず人を大事にし、心も大切にしていく交流をこれからもしていきたいと強く思いました。



(寒い! ウサギの毛の襟巻きを顔に巻いて[シェーンブルン宮殿にて])

オーストリアの魅力

オーストリア政府公認観光ガイド IPP 常子

2006年11月、広島オーストリア協会・広島国際学院大学共催による「広島・オーストリアウィーク」において、オーストリアの歴史や文化を皆様にご紹介できましたこと



は、私にとりまして大変名誉なことでした。オープニングでは、多くの関係者の方々にお会いできて光栄に思っております。このようなイベントは、西日本では初めての試みと聞きましたが、今後もさらに多くの方々に興味を持つていただければと願っています。

さて、06年は、モーツアルト生誕250周年、心理学者フロイド生誕150周年、ベルタ・フォン・ズットナーのノーベル平和賞受賞100周年など、記念すべき年でした。この特別な年に、皆様にお話する機会を得、微力ながら広島とオーストリアとの小さな架け橋となれればという思いを一層強くいたしました。

私の講演内容は、主としてオーストリアの歴史についてでした。その後、ウィーンに戻ってから、両国の相違などを改めて実感することが多くあったのです。そこで今回は、私の目に映った数々のオーストリアの魅力のなかの一つ、舞踏会についてご紹介させていただこうとペンを取りました。ウィーンの舞踏会こそ、特筆に値するものです。大なり小なりの舞踏会が、年間を通じて街の至る所で開催され、なかでも有名なのはオペラ座の舞踏会です。世界中の財界、トップ芸能人などが集まり、まるでバロック時代に迷い込んだのではと錯覚するほど。この非日常的な華やかさと煌めきの世界は、現代ではあまり世界的にも例を見ない光景ではないかと実感しています。舞踏会の季節になると、さまざまな王宮の大ホールが舞踏会場に変貌。リング沿いに建つネオゴシック様式の市庁舎の祝祭ホール、ホテル・インペリアルは勿論のこと、あらゆるホテルで観光客を交えての舞踏会で大賑わいです。

オーストリアの子供達は、だいたい15歳位からダンス教室に通いますから、みなさんダンスの素養が身についています。だから、このシーズンだけは若者からお年寄りまでだれでも、シンデレラ気分になれるのです。普段着はボイと投げ捨て、その夜は蝶ネクタイにタキシードのおめかし。女性はもちろんイヴニングドレスで。この日ばかりは身のこなしにも、一段と優雅さの磨きをかけなくては…。わが家の子供達も、かつてはデビュタントとして出場したり、あちらこちらの会場で踊るのか毎年の行事でした。そんな



とき、私は子供たちの晴れ姿を撮るために大忙しました。でも、子供たちが成長した今は、お客様のエスコートとして舞踏会に出かけることが多くなり、ちょっと寂しい思いをすることも。

よく、舞踏会主催者から、ディナーのテーブルセッティングを頼まれるのですが、これがまたかなり気を使う作業なのです。ナップキンの折り方一つにしても、折り鶴にしてほしいと注文をされると、私はウイーン滞在の女性達のご協力を仰ぎます。50cm×50cmの白い布ナップキン鶴たちは、完成されるとくちばしも羽根もピンと立て、テーブルの主役のように振る舞っています。それが500以上も並んでいるのですから、まさに壯觀のひとこと。ナイフとフォークの間に、それらを一つひとつ形を整えながら、「今夜は誰がここに座るのかしら?」と、思いめぐらすのもいつものこと。労作の鶴ナップキンもひざに置かれた途端、あつという間にただのナップキンに変身してしまう運命はちょっと悲しくて…。愛情いっぱい注いで作成した鶴たちだけに、思い入れもひとしおです。ワインやお肉のシミだつてついてしまうから。バラやランなどで飾られた会場に集まつた人々は、日頃の生活の煩わしさからすっかり解放されます。恋人、夫婦、友人、同業者と一晩中、朝まで踊り明かすのですが、これがウイーン子にとっての明日への大きなエネルギーなのです。

今からちょうど140年前の1867年2月15日、「美しき青きドナウ」が、初めて演奏されました。ワルツの王ヨハン・シュトラウス2世が作曲し、今ではオーストリアの第2の国歌とも言われている名曲。「ドナウよ、いとも青き川よ。谷や野を貫き、おだやかに流れ行く…」という歌詞はあまりにも有名です。当時のハプスブルグ帝国は、プロイセンに敗戦した悲惨な時代でした。でも、そのような現実の苦労や困難には背を向け、「楽しくやろうぜ、時代なんて氣にするな。悲しんだって、どうしようもない。苦しんだって、悩んだって、何の役にも立たない。だから、楽しく愉快に生きよう」と歌いあげたのです。他にも「たった一度の人生」だからこそ、「今日、この日を大切に生きなければ」という曲も。その精神は現在もなお、オーストリア人の根底に脈々と息づいています。どうすれば、今を、現実をエンジョイしながら生きることができるか。それを達成させるために、彼らは労苦を惜しむことがありません。

私も若いときウイーンにやってきました。光陰矢のごとし、すでに30年以上経ち、すっかりオーストリア人気質が身についてしまったのでしょう。日々、私なりの人生謡歌の方途を模索しながら生きています。



講演会

■日 時 3月22日(火)18:00～
■場 所 ホームテレビ多目的ホール
■参加者 71名

オーストリアゆかりの方をお招きするこの講演会は、オーストリアの国と人への理解を深める場として広島オーストリア協会でも人気の行事です。今回は、駐日オーストリア大使館のアルノルト・オーバーマイヤー文化担当官を広島にお招きし、「オーストリアの今」という題で講演されました。

講演では、ベルリンの壁が崩壊した際、2つの異なった社会体制の接点に位置する状況から抜け出したオーストリアは、外交・安全保障政策の転換を迫られたことや、欧州連合に加盟する際農業や通過交通の分野で交渉が難航したことなど当時の政治状況を説明されました。

また、経済分野ではユーロの導入によってオーストリアは世界で第2の経済圏に加入したことにより欧州連合で4番目の経済大国になったが、特に欧州連合に加盟した東ヨーロッパ諸国との投資が広まりオーストリアの企業にとって大きなビジネスチャンスをもたらしたと分析。さらに日本との関係では、アジアの重要な市場であると位置づけており、オーストリアからは木材や金属製品などが輸出される一方、日本からは車やエレクトロニクス製品が輸入さ



クリスマス例会

■日 時 平成18年12月7日(火)
■場 所 リーガロイヤルホテル広島
■参加者 150名

毎年多くの参加者で人気のあるオーストリア協会恒例のクリスマス例会が広島市内のホテルで開かれました。会では橋本協会会長の挨拶のあと、国内外で演奏活動をしている「デュオ旭爪姉妹（ひのつめしまい）」が「聖しこの夜」

トピックス

奥日協会より

広島オーストリア協会と友好提携を結んでいるウィーンの奥日協会の会長にローマン・チーグラー氏が就任されました。チーグラー新会長から当協会へ寄せられたコメントをご紹介いたします。



ローマン・チーグラー
奥日協会会長

この度、カドレチェック前会長の後任として、奥日協会の会長に就任しましたローマン・チーグラーです。宜しくお願い申し上げます。

2007年の9月にはオーストリア親善訪問を計画しているとのこと大変嬉しく思います。これを機会に、今後の交流計画などについてお話しできますことを願っております。

私たち奥日協会は年間を通じて、よ

れ関係が深まっている現状を述べられました。

そして、2005年には日本から27万9千人の観光客がオーストリアを訪れたが、日本の文化はオーストリア人にも人気があり、ウィーンには多くの寿司店があり人気を博しており、こういった分野でも両国の友好関係が深まっていると指摘されました。

このあとの質疑応答ではハプスブルグ家の子孫の行方やオーストリアの音楽教育事情など会員から活発な質問が出されました。

続いて当協会の不破副会長の朗々たる乾杯のご発声のもと懇親会が行われ、平和ボランティア活動のためオーストリアから来日しているチエザル・コンスタンティネスクさんが紹介されました。

オーバーマイヤー氏は「まもなくバンコクへ転任しますが、広島には素敵な思い出がたくさんできました」と話されました。

や「アヴェ・マリア」などクリスマスにちなんだ曲をピアノとヴァイオリンで奏で、華やかな雰囲気に包まれました。

会では駐日オーストリア大使館やオーストリア政府観光局そして法人会員から寄せられた素敵な賞品が当るお楽しみ抽選会が行われ、番号が読み上げられるたびに笑いと驚きがあふれる会となりました。

オーストリアイベント情報

今年も国内外でオーストリア関連の様々なイベントが行われる予定です。その一部をご案内いたします。この機会に是非どうぞ！

国内イベント

- ◎2007 ウィーン少年合唱団 [5月4日～6月17日 東京オペラシティ他] 電子チケットぴあ <http://t.pia.co.jp/> TEL0570-02-9990
- ◎ウィーン版ミュージカル「エリザベート」
ウイーンよりオリジナル・プロダクションのフルキャスト約40名が出演。[5月7日～5月20日 新宿コマ劇場] 新宿コマ劇場 TEL03-3200-2213
- ◎宝塚雪組公演「エリザベート 愛と死の輪舞」
オーストリアの皇妃エリザベートと「死」との愛の物語。[5月4日～6月18日 宝塚大劇場] 宝塚歌劇インフォメーション TEL0570-00-5100

海外イベント www.austria.info/jp より

【ウィーン】

- ◎レベッカ・ミュージカルの最新作 [～6月 ライムント劇場]
- ◎ウィーン春の音楽祭 [4月10日～5月10日]
- ◎国際音楽祭（ウィーン芸術週間の音楽プログラム）
[5月5日～6月19日 コンツェルトハウス]
- ◎ウィーン芸術週間 [5月11日～6月17日]
- ◎市庁舎前広場の音楽映画フェスティバル [6月30日～9月2日]
- ◎イムプレス・ダンス・フェスティバル：ヨーロッパ最大のダンス・フェスティバル
[7月半ば～8月半ば]
- ◎ヴォイス・マニア2007：アカペラのヴォーカル・アンサンブルによる国際音楽祭
[11月半ば～12月半ば]

【ザルツブルク州】

- ◎ザルツブルク・フェスティバル・聖靈降臨節のバロック音楽祭
[5月25日～28日]
- ◎ザルツブルク・フェスティバル：オペラ、演劇、コンサート [7月末～8月末]

【ケルンテン州】

- ◎トリゴナーレ：古い音楽のフェスティバル [6月16日～7月8日]
- ◎フィンケンシュタイン城廃墟でのフェスティバル [6月～9月]

【シュタイヤマルク州】

- ◎サンクト・ガレン・フェスティバル：最高レベルのクラシック
[7月～8月 アイゼンヴァルツェン自然公園]
- ◎ミュージカル「エクスカリバー」：世界初演、プレミエール
[6月21日、6月21日～7月19日 ヘルバーシュタイン城付属公園]

【チロル州】

- ◎プロムナード・コンサート2007 [7月半ば、インスブルック王宮の中庭]
- ◎第31回インスブルック初期クラシック音楽祭
[7月半ば～8月末、アンプラス城/州立劇場]

【フォアアルベルク州】

- ◎ユーベルティアード
[6月14日～24日及び8月25日～9月9日 シュヴァルツエンベルク]
- ◎ブレゲンツ・フェスティバル：ジャコモ・ヅッチーニ「トスカ」
[7月19日～8月19日 ブレゲンツ]
- ◎モンタフォン音楽祭：郷土の調べ [8月24日～26日]

旅の楽しみ オーストリアの世界遺産 www.austria.info/jp より

Q オーストリアには一体いくつのユネスコ世界遺産（歴跡や景観そして自然など、人類が共有すべき普遍的な価値をもつもの）があると思いますか？

A オーストリア国内には現在8つのユネスコ世界文化遺産が登録されています。それは…

◆シェーンブルン宮殿

ハプスブルク家の夏の離宮。マリア・テレジアとその子供達が過ごした部屋、モーツアルトが御前演奏した部屋、ナポレオンがウィーンを占領時に使った部屋など、華やかなヨーロッパの歴史の一端に触ることができます。

◆センメリング鉄道

ウィーンから南へ、グラーツ方面へ約80キロ行くと、グロニッツという山間の駅があり、ここからミュルツツーシュラーカまでの約40キロの区間が「センメリング鉄道」、1854年に完成した世界で初の山岳鉄道です。

◆ハルシュタットとダッハシュタイン

標高2995メートルのダッハシュタインを中心とするこの地域は、アルプス最東端の氷河があり、雄大な自然芸術を鑑賞できる場所として人気です。

◆ザルツブルク 旧市街

岩塩鉱のおかげで、街はザルツブルクという名前（塩の城）と富の両方を手に入れ、莊厳なバロック都市として栄えてきました。モーツアルトの生誕地としても知られています。

◆グラーツ 旧市街

ウィーンに次ぐオーストリア 第2の都市。グラーツという名称はスラブ語で小さな城を意味する「グラデツ」に由来するとされており、古来、この町は東からの外敵に備える要塞の役割を果たしてきました。

◆ドナウ峡谷 ワッハウ地方

オーストリアを流れるドナウ川のハイライトともいえるヴァッハウ地方は、美しい自然と文化が見事に調和している景勝地です。豊かなドナウの両岸には葡萄畠が広がり、良質のヴァッハウ・ワインは世界的にも有名です。

◆ウィーン旧市街

オーストリアの首都、シュテファン寺院を中心とした2000年の歴史を誇る旧市街が、文化遺産に指定されました。

◆ノイジードラー湖

長さ36キロ、幅7～15キロの、中部ヨーロッパで唯一のステップ湖です。



注目の人

今年1月にサッカーW杯日本代表の宮本恒靖選手と三都主アレサンドロ選手がJ1からオーストリア1部リーグ レッドブル・ザルツブルクに移籍しました！オーストリアでの二人の活躍に期待したいものです。

- 宮本選手の公式ホームページ <http://sports.nifty.com/tsune/index.jsp>
- 三都主選手の公式ホームページ <http://www.alex-mania.net/alex/top.aspx>
- レッドブル・ザルツブルクの公式ホームページ <http://www.redbulls.com/soccer/salzburg/>

広島オーストリア協会 Christmas presents



広島オーストリア協会主催、恒例クラシックコンサート

2007.12/9(日) 14:00開演 広島国際会議場
(13:30開場) フェニックスホール
オーケストラの名曲が楽しくゴージャスに変身!
天才肌5人の金管超絶! 名演奏!!

今年はこれまでのクラシックコンサートからがらっと雰囲気を変えて…プラスの極上の楽しさを教えてくれる「金管五重奏団ブラシモ・ウィーン」の来日公演をお届けします。ブラシモ・ウィーンはトランペット、ウィーンF-ホルン、トロンボーン、チューバからなる金管五重奏楽団で、1989年結成以来アメリカ・ドイツ・スイスなどで演奏会を重ねるほか、各地の音楽祭やTVでも大活躍の楽団で

す。その実力はクラシックからポピュラーまで幅広い多彩なレパートリーを誇り、ありとあらゆる名曲すべてを5本の金管用に編曲してしまう最上のパフォーマンス、オシャベリも交えた楽しく格調の高いステージを披露、クリスマスで華やぐ気分を一層盛り上げてくれるでしょう。魅力溢れる演奏の数々にご期待ください。

プログラム

- J. S. バッハ 「クリスマス・オラトリオ」
ヴェルディ 「凱旋行進曲」(「アイーダ」より)
ドヴォルザーク 「ユモレスク」
F. ロウ 「踊り明かそう」(マイフェアレディより)
P. マッカートニー 「イエスタデイ」他
※プログラムは変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

投稿をお待ちしています

- ①オーストリアの旅の思い出・生活・習慣・芸術のこと・オーストリアの友人の話・その他何でも結構です。会員の皆さまからの寄稿を募集します。お名前とご連絡先を明記して協会事務局へお送り下さい。原稿用紙400字詰3枚以内、関連する写真(あなたが一緒に写つていればなお結構)を1~2枚付けて下さい。ただし事務局で手直しさせていただくことがあります。**掲載分にはささやかなプレゼントを送らせていただきます。**(ご投稿の写真は後日お返しいたします)
- ②会員が主催するコンサートなど催し物の情報、会員の動向・消息・会報への提言・協会への希望も、できれば①と同様、お名前などご記入のうえお送り下さい。なお会報への提言(400字程度)・協会への希望は住所のみ、無記名でも結構です。
- ①、②どちらも原稿の返却はいたしませんのでご了承下さい。

編集後記

今月2月から人事異動のため事務局長が木原から日野に代わりました。日野:オーストリア協会事務局は旧広総さんから引き継がせていました際の担当者として携らせていただきましたので、3年ぶり4年目です。皆様にご満足いただけるよう活動の充実に取り組んで参りたいと存じておりますので、前任の木原と同様、皆様よろしくお願い申し上げます。